

『ためらわずに行き』(使徒の働き 10 章 17-33 節) 2024.2.11.

<はじめに> 聖書には奇跡や不思議な出来事が記されていて、その理解・納得に苦しむ人は少なくありません。世の中にも不思議なこと、不可解なことがあります。すべてに説明がつき、それに納得できればいいのですが、そうではないことも多々あります。どう受け留めればいいのか。

I 不思議な導き(17-23)

①今の幻はどういうこと(11-18)

ペテロは、3度繰り返された幻(11-16)を見た後、どんな反応をしていますか(17,19)。幻を示された神は、なぜ彼に説明もされず、分かりにくい幻を見せられたのでしょうか。この幻で、神がペテロに伝えたいことは何でしょうか。

②声が聞こえる(19-20)

ペテロが幻について思い巡らしている頃、コルネリウスから遣わされた3人がペテロの居場所を捜し当て、声を掛けます(17-18)。そのとき、ペテロに「ためらわず(何の差別もせず)に彼らと一緒に行きなさい。わたしが彼らを遣わしたのです」と語ったのは誰ですか。

③迎え入れるペテロ(21-23)

ペテロは降りて行き、3人の使者と対応の後、彼らを迎え入れて、翌日には一緒にカイサリアに向けて出発します。律法では禁じられている異邦人との交際にペテロが踏み切った(28)のには、幾つかの要因がありました。それらを見つけて列挙してください。

II 不思議を突き合わせる(24-33)

①ペテロを迎えるコルネリウス(24-26)

カイサリアではコルネリウスがペテロを待っていました。どんな人たちと一緒に待っていましたか。ペテロを迎えてコルネリウスは足元にひれ伏し拝みます。そのとき、ペテロは自分のことを何と言っていますか。

②ためらうことなく来た(28-29)

コルネリウスの家に入ったペテロは、そこに集まっている多くの人たちを前にして、ここに来た訳を話します。この時点で、彼は先に見た幻の意味を分かっているようです。説明もなく、どうして彼はそれを理解したのでしょうか。しかし、まだわからないことも残っています。

③今、伺おうとして(30-33)

今度はコルネリウスが4日前に御使いが現れた経験をペテロに話します(30-33→3-6)。御使いは、あとはペテロを招いて聞くようにと言われます。こんな面倒なことをせず、なぜ御使いから直接すべてのことを知らせようとはされなかったのでしょうか。

III 不思議がつながる

①分からないから…

最初から全貌を明らかに示されているなら、迷うことはありません。が、素直に受け取るとも限りません。まして目に見えない神が導き、働かれるなど、大方の人は思い至りません。分からない中で、人は考え、思い巡らし、自分が見えていないことを探ろうとします。

②見つける旅

コルネリウスは御使いを、ペテロは幻を見ました。場所・時間・内容もバラバラで不明瞭ですが、繋がりもあります。それを手繰って進むうちに、新たに見えて来るものがあります。神はミステリーですが、丹念に探る者は神と真理を発見します(箴言 8:17, エレ 29:13)。

③サインとタイミングをとらえて

神は目に見えませんが、各所にその足跡、声、証拠を残しておられます。一見不思議で不可解に思える中でも、しっかりとした計画をもって私たちを導かれます。一つ一つそれを拾い集め、その導きに従ううちに、私たちが神の計画をだんだん理解できます。

<おわりに> 分からないこと、不安な時こそ、信頼できる存在が傍にいるかどうかは重要です。神は不思議な御方ですが、私たちが信頼をもって近づくとき、その信頼に応えてくださる頼りになる御方です。あなたを導かれる神は、自ら見つけられることを待っておられます。(H.M.)